

私たちは、命のつながりに思いを馳せる暮らしを提案し、心豊かな生き方のお手伝いをします。

創業 明治 44 年

命のつながりを想う



発行 有限会社 長門屋  
編集：未来の種まき委員会  
〒990-0042  
山形市七日町 1-4-12  
TEL 023-622-2204  
FAX 023-622-2203  
<http://oshironomise.com>  
2020年 第33号

# あどつあま

“あどつあま”とは…

仏様をさす方言。米沢の方では住職様、僧侶をさす  
さうです。宗教の知識を通してお役にたてれば嬉しいです。



長門屋

お城の店が目印です。

## 「アマビエのトイレットペーパー」プレゼントします。

コロナ禍のため、GWは閑散としていた街中も、ようやく飲食店が再開し、明かりの中に人の姿が見えることからほっとします。検温、マスク、店内消毒から始まる新しい生活です。そんな中、「アマビエ」なるものを知りました。

なんでも江戸時代に、今の熊本の中津から姿を現し「疫病が流行したら、私の姿を描いた絵を人々に早々に見せよ」と予言した妖怪だと伝えられているとか。その姿を映した絵には、除災の力があるとされたそうです。

そこで、長門屋でもこれにあやかり、この夏の「お盆フェア」のお客様プレゼントとして疫病退散の願いを込めた「アマビエのトイレットペーパー」をご用意しました。

六月二十日(土)〜八月十八日(火)の期間、先着百名様に差し上げます。ぜひご来店ください。

一日でも早い疫災終息と、皆さまの健康と穏やかな生活が戻ってくることをお祈りしております。



中は、真っ白なトイレットペーパーですから、心置きなくお使いいただけます！

## 平安典礼さんとの業務提携について

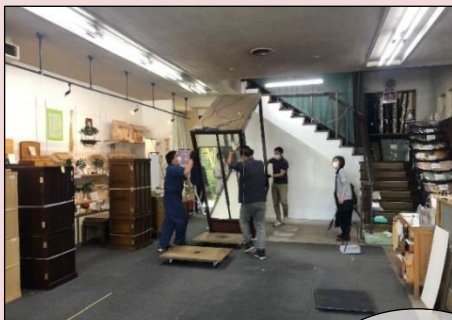
この度、長門屋には大きな出来事がありました。それは、平安典礼さんの仏壇ギャラリー（山形市青田）の閉店が決まり、六月一日より弊社との業務提携が始まったことです。

提携締結と同時に、それまで仏壇ギャラリーさんの店内に並んでいた商品や什器も引き継ぐことになり、弊社に運び込まれてきました。左上の写真は、先日大規模な展示替えを行った時の様子です。交流を通して、平安典礼さんの会社姿勢や、仏壇ギャラリーさんの店舗作りに触れる中で、今後に生かしたい多くの気づきをいただいています。

商品と仏事の専門知識を活かして、「祈りのある暮らし」を提案するのが私たちの使命です。

今後新たなご縁により出会うお客様お一人お一人に、今まで同様、丁寧に寄り添いながら、お役に立てるように精一杯努めていきたいと身を引き締めております。

(スタッフ一同)



↑ 大規模展示替えの時の様子

上下2枚の  
写真は、ほぼ  
同じ場所です



↑ 盆提灯が並んだ現在の様子



郁文堂さん（七日町三丁目）の

ごえいか

# 「最上三十三観音 御詠歌本」が

## 再版されました！

今年の五月に予定されていた十二年ぶりの「最上三十三観音」のご開帳は、コロナ禍の影響で、来年に延期になってしまいました。沢山の人々に待ち望まれた、郁文堂さん発行の御詠歌本は、一足先にリニューアルして再版されました。〈御詠歌〉とは、仏教の教えを「五・七・五・七・七」の和歌にして一般の人々に伝えられたもので、寺院や霊場巡礼の際に唱えられてきました。郁文堂さん発行の御詠歌本は、昭和三十三年の初版以降、版を重ねてきました。



左：麻の葉…子孫繁栄、無病息災/右：花菱型…魔除け



表紙は二種類。赤いほうは、従来からの麻の葉柄。カラフルな花菱柄は、郁文堂さんの現店主、原田伸子さんの孫娘さんがデザインしました。



郁文堂さんの外観

本の中の、最上三十三観音の各札所に配された観音様のお姿は、かつて郁文堂さんの店主と交流のあった画家、今野可啓（こんのかけい）氏の手によるもの。今野氏は、明治三十二年に山形市船町に生まれ、京都で活躍した昭和の版画家です。十センチ大の各観音様のお姿の箱入りの版木は、今も郁文堂さんが大切に保管されているそうです。

最上三十三観音の札所は、開創五百七十年以上の歴史を持つ国内有数の巡礼地とされ、山形県を縦断するようにおよそ二百キロメートル余りをめぐります。

来年こそは、沢山の方が御詠歌本を携えながら、観音様に、そして自身の心や、ご縁ある人に出会う巡礼の旅をすることが出来ますように。

（収録内容）

1. 懺悔文
  2. 三遍戒文
  3. 開経偈
  4. 般若心経
  5. 延命十句観音経
  6. 普廻向
  7. 最上三十三観音御詠歌
  8. 庄内三十三観音御詠歌
  9. 山形三十三観音御詠歌
  10. 西国三十三観音
- 1,500円(税込)

## 大津淑子より 退職のご挨拶



この度、六十五歳を機に六月二十五日をもって退職いたしました。在職中はたくさんの方々にお世話になり、本当にありがとうございました。ご迷惑を掛けながらも、家事と仕事の両立を二十五年間頑張ってくることが出来ました。

接客の仕事を通して、たくさんの方々に出会い、たくさんの方々の感謝の言葉を頂戴したことが私にとって一番の励みとなりました。

社長はじめ職場の仲間、そして家族の支えがあつてこそと感謝しております。今後も長門屋がますます発展されることを願っております。

退職後は、夫の仕事の手伝いと八月で二十一歳になる愛犬の介護に専念しながら、のんびりゆつくり楽しみながら余生を過ごしてまいりたいと思います。

大津淑子



大津さんの入社は、平成7年4月のこと。当時、3人のお子さんは高校生と中学生でした。一日店で立ち仕事で働いた後、育ち盛りのお子さんと家事が待っている家を行き来する毎日は、さぞかしお忙しかつたらうと想像します。後から入社したスタッフ一人一人を、温かく見守り育ててくれたお陰で今の長門屋があります。この穴を埋めるのは容易ではありませんが、皆で力を合わせて頑張りたいと思います。長い間本当にありがとうございました。（代表 笹林陽子）